

実施目的

多摩地域は、豊かな自然や多くの観光資源が存在しているものの、1箇所では旅行者等を集客できる観光資源は少なく、都心からの移動時間を有効に使える観光ルートも少ない。そのため、旅行者等が多摩の魅力を感じ、リピーターとして再び多摩地域を訪れたいとなるような観光資源の発掘と観光ルート開発を行い、国内旅行者等の誘致を促進する。

実施内容

観光ルート開発モデル 業務委託 1次産業体験の日帰りモニターツアー 「東京の「村」のニュースポットで楽しむ農林漁業よばり体験モニターツアー」 (檜原村)	
実施日:2022年11月18日(金曜日) 天気:晴れ 参加人数:14名 移動手段:貸切バス(マイクロ)	
9:00 JR武蔵五日市駅出発	
9:30~11:10 東京チェンソーズ(林業見学)	林業の現場を見学。森林の役割や環境保全活動について担当者より案内。
11:30~14:20 神戸国際マス釣場 ・11:30~12:30 内水面漁業案内・マス釣り体験 ・12:30~12:40 カノトスモーク製造見学 ・12:40~13:50 アウトアランチ(B-YARD) ・13:50~14:20 カノトアビージョ製缶体験	檜原村の内水面漁業の説明のあと、各自釣竿を持って、マス釣り体験。マス釣後は神戸国際マス釣場で製造しているカノトスモークの燻製作りの現場を見学し1次産業の6次化について紹介。 昼食は青梅に店を構え、本場米国の大会に出場経験のあるBBQ演出家が、キッチンカーで登場。奥多摩ヤマメや東京シャモ、西多摩産の野菜など東京の食材を活かして提供。 1次産業の6次化を見学。出来上がったマスのアビージョを製缶する体験を実施。
14:30~14:55 ひのはらファクトリー	昨年オープン。地元特産のじゃがいもを加工したじゃがいも焼酎の製造工場を見学とじゃがいも焼酎の試飲。1次産業の6次化モデルについて紹介。
15:00~16:00 檜原森のおもちゃ美術館	昨年オープン。館内の案内のほか、ワークショップを実施し、「ひのきのタマゴ」を製作。
16:20~16:35 山の店	檜原のお土産購入
16:50 武蔵五日市駅到着	

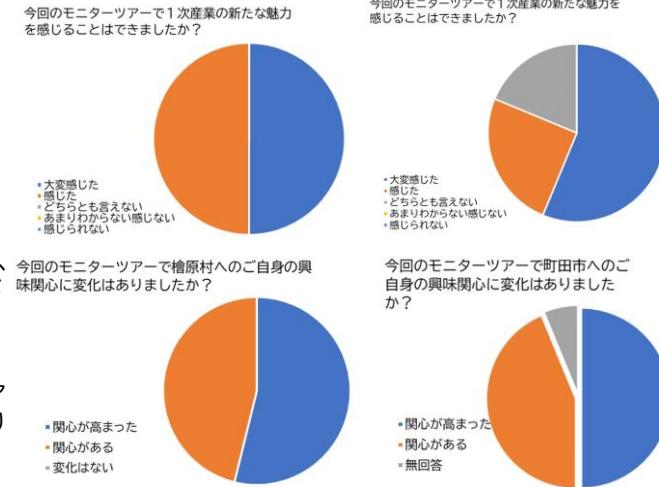


観光ルート開発モデル 業務委託 1次産業体験の日帰りモニターツアー 東京の身近な自然と食材の宝庫・多摩丘陵を味わう旅 1次産業体験の日帰りモニターツアー ~TOKYO 里山 Experience~ (町田市)	
実施日:2022年11月24日(木曜日) 天気:晴れ 参加人数:15名 移動手段:貸切バス(マイクロ)	
12:00 多摩境駅 出発	
12:20~12:50 東京みるく工房ビュア(北島牧場)	・自社工場で加工したアイスの試食 ・ディナーで使用するアイスやミルクの仕入れ
13:50~15:20 あした農場	・町田野菜の収穫体験 農家の渡辺氏が、収穫時期の野菜をピックアップし、鎌の使い方や野菜の収穫方法を伝えながら、参加者に収穫の体験をしていただいた。 ・収穫体験に同行したシェフの木村氏や渡辺氏からそれぞれの野菜のおいしい料理の仕方や食べ方の紹介も行った。 ・里山の遊び方を体験してもらう為、3つのコンテンツを用意した。 1. 竹灯籠作りワークショップ 2. 焚火体験(焚火料理やおこし体験) 3. 収穫した野菜や東京の食材を利用した料理体験 ※その他、シェフの木村氏 ※その他、里山敷地を自由に散策して頂いたり、調理で利用するピザ窯の利用体験など、細かい遊びも体験していただいた。
15:40~18:00 大谷里山農園(里山体験)	・オシャレな空間を演出したアウトドアレストランを設営し、寒さ対策も講じた中で、参加者の皆様にも町田野菜をふんだんに使用した里山ディナーを召し上がった。食事スペースと別に、焚火や焚火スイーツを体験するスペースを設けて、アウトドア体験も楽しみたい。
18:00~19:30 大谷里山農園(里山ディナー)	
19:50 多摩センター駅解散	



事業成果

- 1次産業への理解**  
ツアー終了時のアンケートでは、参加者のすべてが東京の1次産業について理解いただき、その約8割が「十分理解」「やや理解」との評価をいただいた。
- 1次産業の認知度**  
参加者の感想、アンケートなどから、1次産業および食に対する認知度がツアー参加によってさらに深まり、当該エリアの観光資源への関心度が高いことがうかがえた。
- モニターツアーエリアの興味関心**  
参加者の感想およびアンケートなどから、実施エリアに対する興味関心がツアー参加によってさらに深まり、当該エリアの関心度が高いことがうかがえた。
- モニターツアーエリアの興味関心**  
参加者の感想およびアンケートなどから、実施エリアに対する興味関心がツアー参加によってさらに深まり、当該エリアの関心度が高いことがうかがえた。
- ツアーの満足度を高める仕組み**  
今回のモニターツアーは全てにおいて体験コンテンツ取り入れ、1次産業や食に対する事業者や生産者の声を直接聞く機会を設けた。単に体験する、見学するだけに留まらず、そこに携わる人の生の声を聴くことが、そのコンテンツについてさらなる理解とツアーの満足度を高めることがうかがえ、アンケートからも満足度が高まった様子うかがえた。



今後の課題と展開

- ツアー実施による認知度の向上**  
単に情報発信に留まらない実際に訪問するツアー化は、来訪者の満足度を高め、当該エリアの観光資源や産業の認知度を高めることが期待できるものと考え。早期にツアー化に取り組むことや観光モデルルートの公開などが今後対応すべき課題としてあらためて認識した。
- ツアーの質・価値を高める取り組み(旅前の情報提供の充実)**

今回のモニターツアーのアンケートで得られた貴重な声を活かし、ブラッシュアップを行う。その地域の1次産業や食を理解できるようにストーリー化することでツアーの質を高めていくことが重要と考える。また、そのツアーの価値を理解してもらうためには実施地域や受入先との相互理解と協力を得る必要があり、受入先、地域、実施事業者、ツアー参加者がそれぞれメリットを享受できるような取り組みが求められると考える。参加者のツアー想定価格と差があるため、従来のツアーパンフレットでは表現できないデジタル技術等を活用した新たなPR方法を取り入れるツアーへの参加を動機づける仕組みなどが必要である。また、インバウンドの消費意欲は非常に高く、価格よりも体験価値を優先する傾向があるため、想定するツアー単価でも受入が可能と想定され、国内観光客向けの定期ツアー化を進めるほか、インバウンドをターゲットとした販売戦略も同時に進めることも必要と考え、これによりインバウンド向けのコンテンツも磨き上げられるものと考え。

- 着地型およびマイクロツーリズムの推進**  
コロナ禍で、マイクロツーリズムが注目された。これを契機にこれまでとは違った着地型の学びなど有意義なツアーを提供し、コロナ前の旅行スタイルを変える働きかけも重要と考え、当該地域と関係する事業者、団体が協力して取り組むことがますます重要になると考える。また、マイクロツーリズムでは二次交通の課題を解消するためにもワンストップですべての手配が完了し、移動時間の心配もないツアー化が望まれ、ツアー化により地域内の資源を結び付けることが可能と考える。さらに域内の宿泊需要やツアー終了後の飲食需要など、ツアー以外での消費活動も拡大することが可能であり、ツアーに留まらない効果も得られると想定する。

- 受け入れ態勢の整備と支援**  
観光地化されていない受入施設ではツアー化することで窓口を旅行会社に一本化し、開催日時を限定することで受入施設の負担を軽減することができる。また、施設面でも駐車場やトイレなどの設備面での整備にも負担が発生することから、地域の観光関連団体等に整備の支援と理解を求めることも重要と考える。

- 旅行を通じた、環境教育、SDGsへの取り組み強化**  
本テーマは1次産業体験であり、農業・林業・漁業ともに自然・地球環境保全などと密接な関係がある。自然の恵みを直接的に享受する1次産業に従事する人は、その保全と維持の重要性を日々の仕事を通じて体験している。昨今、教育現場で取り入れられているSDGsや環境問題の教材として、この1次産業体験ツアーを活用することは有効であると考える。これにより、若い世代に将来の1次産業に関心を持ち就業につなげることや、SDGs、地球環境への理解をさらに深めることが可能であり、教育旅行において質の高い内容を提供でき、新たな展開の可能性も見えた。